

2022

絆

長野県小学生バレーボール連盟

君の笑顔がサービスエース

長野県小学生バレーボール連盟

日 時	2022	4	24
時 間	10 00	12 00	
場 所	A N C	アリーナ	

都道府県審判委員長会議報告

令和4年度 日本小学生バレーボール連盟 審判委員会

【 行動理念 】

ルールを通して、指導者と共に小学生バレーボールの競技力向上に寄与する

行動指針

1. 6人制競技規則に精通し、自己の審判技術の研鑽を図り、安定した判定基準と正しいルールの取り扱いを行う。
2. 小学生競技規則の取り扱いや6人制ルール改正点についての伝達や意見交換に取り組み、指導者や選手にルール遵守の気運を醸成する講習会を実施する。
3. 審判資格取得への意欲を高めるため、地域性を鑑み、協会との連携を図りながら指導者や選手の資格認定に向けた取り組みを計画的・継続的に推進する。
4. 体罰・暴力・ハラスメント等を許さない気運を高めるため、試合中の指導者や応援団の言動または選手に対しても毅然と対応し、役員と協力して安全な競技環境をつくる。
5. フェアプレーの普及・啓発を図るため、グリーンカードの継続的な活用を推進する。
6. バレーボールの発展に係わる若手の人材育成に努める。

バレーボール 6 人制競技規則 付録(2) 小学生競技規則の取り扱いについて

【第 1 条】 施設と用具

小学生のコートでは、アタックラインはベンチ側のサイドラインから外側に、長さ 15cm、幅 5 cm の短いラインを 20cm 間隔で、全長 1.4m となる破線を引き、延長される。

(コートレイアウトについて：2006 年 12 月 30 日付け)

【第 2 条】 選手の番号

4.3.3(1) 番号はジャージの胸部と背部のそれぞれ中央に付けなければならない。番号の色と明るさは、ジャージと対照的でなければならない。

番号の色については、ルール上の問題がなくても、識別が不可能な色は避けるべきである。
また縁取りのみの番号は、禁止とします。

(小学生のユニフォームについて：2005 年 2 月 3 日付け)

【第 3 条】 チームのスターティングラインアップ

チームのスターティングメンバーとサービス順の確認について主

審

⑥⑤④③②①			①②③④⑤⑥
--------	--	--	--------

副 審

1. 方法

- ① 図のように、コート中央に、ネット中央からサービス順に並びます。セカンドレフェリーは、スターティングラインアップを記入したラインアップシートにより、スターティングメンバーとともに、サービス順を確認します。
- ② スターティングメンバーが誤っている場合には、通常の 6 人制競技規則どおりの手順に従って訂正します。
- ③ ラインアップシートに記載されたサービス順とコートに並んでいる選手の順番が異なる場合は、ラインアップシートにしたがって訂正します

- ④ 試合中のサーバーの誤りについては、誤ったサーバーがサービスに向かった時点で、そのサーバーが誤りであることを伝えます。
- ⑤ 審判団がサーバーの誤りに気付かず、サービス順の誤りが起こった場合は、通常の6人制競技規則どおりの手順に従って訂正し、当該チームの反則となります。

(セット開始時におけるサービングオーダーの確認について：2006年1月13日付け)

スコアラーは、正しいサーバーの番号を確認し、ファーストレフェリーに合図を送る。これは、間違ったサーバーは、打たさない取り組みである。競技のラリーも始まっていないのに、反則により得点を得失するのではなく、ラリーの結果で、得点を得失する楽しさを選手に味わってもらいたいと考えている。ファーストレフェリーは、スコアラーの合図を確認してからサービスの吹笛を行う。

【第4条】 試合の進行

4 サービス順の誤りは反則となり、その間違いは直ちに訂正される

スコアラーは、ファーストレフェリーがサービス許可の吹笛を行う前に、サーバーが誤りであることをセカンドレフェリーに伝える。チームは、正しいサーバーと交代させる。正しいサーバーが分からない場合、ゲームキャプテンは、セカンドレフェリーに確認することができる。この場合、スコアラーは、記録用紙に基づいて正しいサーバーの番号をセカンドレフェリーに伝え、セカンドレフェリーは、スターティングラインアップシートをもとに、キャプテンに正しいサーバーの番号を教える。確認の意味で、次のサーバーの番号も伝える。誤ったサーバーが打った場合は、ローテーションの反則となる。(6人制競技規則 7.7 参照)

5 監督は、ラリー中、ベンチに座っていなければならない

監督を含むチームメンバーは、ベンチに座っている限りコート上の選手に指示を出すことは許される。6人制では、監督は試合を妨げたり、遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内(ウォームアップエリアの場所により移動範囲は変わる)で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができるが、小学生の大会では、監督は、ラリー中はベンチに座っていなければならない。ラリー後に監督がコートもしくはウォームアップエリアに近づく主たる目的は、選手に対して、競技に必要な指示を与える為である。このことは、みだりに監督が立ちあがったりする行為を許容するものではありません。過度に目的から逸脱した行為に対しては、競技規則第21条によって処置をします。監督を含めベンチスタッフが、自然発生的に喜びを表す表現として偶発的に立ちあがったりする行為は、許容範囲です。しかし、監督以外のチームスタッフ(選手)が毎回のように立ちあがったり、あるいはベンチから数歩前に出たりする行為は、

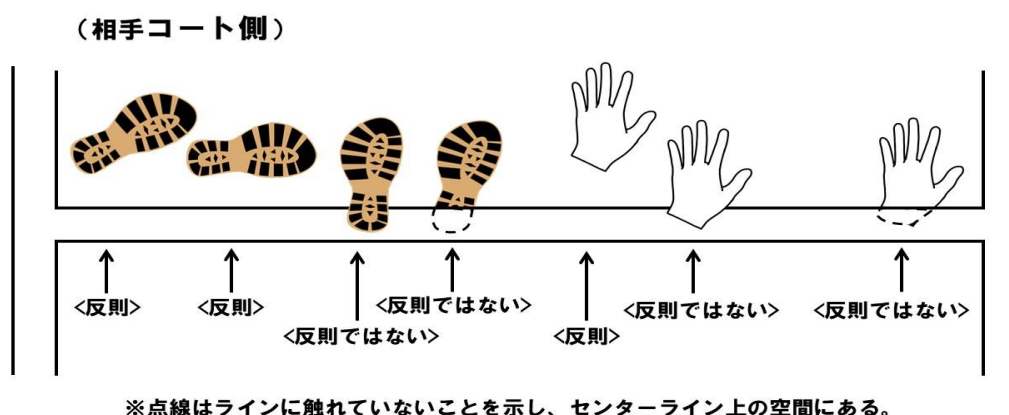
ルール違反です。監督がコート上の選手とハイタッチや飛んだり跳ねたりする行為、相手を威嚇する行為等もルール違反となります。

(チーム役員のベンチでの行動(マナー)に関する取り扱い：2006年12月30日付け)

指導者は、選手が、競技や審判(ラインジャッジ)に集中できるよう配慮し、ラリー中は、ベンチに座って指導すること。

【1】 ネット付近の選手

片方の足(両足)または片方の手(両手)がセンターラインを越えて相手コートに触れても、侵入している片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる身体の部分も相手コートに触れることは許されない。



付則 1

テクニカルタイムアウトは、選手の健康と安全に配慮して、選手に給水をさせなければならない。

テクニカルタイムアウトは、戦術的な指示をするタイムアウトではない。(平成31年付け) 競技中の選手の健康と安全に配慮し、給水を行う。その取り扱いは、4条6により、選手はベンチ横のフリーゾーンに集まり給水を行う。また、選手の体調管理は、常に指導者および保護者の責任のもとで行われる。ベンチスタッフは、健康観察を目的に選手の近くに行き、話することはできるが、作戦上の指示は出せない。控えの選手も含め、ラインジャッジや点示に係わる選手も給水と健康観察を必要とする。チーム指導者は、レフェリーと共に選手の健康状態を確認すること。正規のタイムアウトでも、選手が監督の話を聞きながら給水できる状態をつくること。

付則 2

袖のないユニフォームは、選手の安全性を考慮し禁止とする。

肌の露出部分を多くすることで、擦り傷等の危険が高まり、さらに、これまでも後を絶たない「盗撮」が増えていくのではないかと危惧します。小学生段階では、ノースリーブにすることによりパフォーマンスが著しく向上すると考えていません。

① ユニフォームの上着をパンツの上に出すことについて

ユニフォームは、しっかりとパンツの中に入れるように指導してください。理由としては小学生チームのユニフォームは、多くが選手の体にフィットしているものではありません。そのようなユニフォームをパンツの外に出してプレーすることは、動きを妨げ、パフォーマンスにも影響することが予想されます。体にフィットしているものであると、ジャンプなどの度に肌の露出が見られ、ノースリーブの場合と同様のリスクが生じると考えます。

② 背番号等をユニフォーム生地の色と対照的な色に背番号の見えにくいものが増えています。審判員が番号を確認できない場合があります。誰もが見やすいユニフォームの着用をお願いします。

③ ユニフォームについて

- ・地域名を入れる場合でも前記の事項がはっきり識別可能なものにすること。
- ・個人名を入れることは禁止します。
- ・ソックスは長さとしを統一すること（但し、混合では色分け可）

（ユニフォームについての基本的な考え：2012年4月1日付け）

【その他】

I. 小学生の試合におけるスクリーンの反則について

昨今、小学生の試合でスクリーンの反則になってしまっているケースが多く見られます。ほとんどの場合、反則を取られずにそのまま流されていますが、小学生の場合でもスクリーンの反則は成立します。

また、チーム側からは意図的に行っているのではないという声も聞かれますが、意図的かどうかということではなく、事実としてスクリーンが形成されたかどうかという点が判定の基準になります。

そこで、小学生の試合でのスクリーンの反則についての取り扱いを、下記の通り設けますので、今後の試合に適用し正しい運営を行ってください。（1）スクリーンの反則について

※ 6人制競技規則を参照のこと（12.5）

（2）小学生での取り扱い

- ① 小学生の試合でのスクリーンの反則は、上記 6 人制競技規則に準拠し、次の通り取り扱ってください。

ア. 主審はサービス時に、スクリーンの反則となり得る位置に競技者がいないか確認してください。

イ. スクリーンの反則となる可能性がある場合には、当該チームのキャプテンを呼び指導を行ってください。その際は該当する競技者の番号や位置を明確に伝え、スクリーンにならないよう離れるように指導してください。ウ. 上記ア、イの手順を踏んだ後、反則を適用してください。

② 判定の際の留意事項

ア. スクリーンの反則はネット付近の競技者だけでなく、ネット付近の競技とバック・ゾーンにいる競技者との位置関係によっても発生しますので、その点も見逃さないように確認してください。

イ. 反則は形成されたスクリーンの上をサービスのボールが通過した時に成立しますので、事実をきちんと確認して、判定してください。

（小学生の試合におけるスクリーンの反則について：2005年2月3日付け）

12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの 1 人または複数の選手が集団で腕を揺り動かし、跳びはねたり、左右に動かしたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービスヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことがスクリーンになる。サービングヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスクリーンにならない。

（ルールブック条文変更：2022年度）

II. 不法行為とその罰則について

小学生の試合では、大人の不法な行為に対しての取り扱いは、6 人制競技規則 21 条の通りとする。選手の場合は、最初の不法な行為に対して「教育的指導」を与える。その取扱いは、いずれの選手でも軽度の不法行為があった場合、ファーストレフェリーは当該チームのゲームキャプテンとセカンドレフェリーをレフェリースタンドに呼び、指導を行う。

ゲームキャプテンは、指導された内容をコート内の選手に伝え、セカンドレフェリーは、指導された内容をチーム監督に説明する。教育的指導は、試合中、1 チーム 1 回のみとする。

以降は大人と同じ取り扱いとなる。

（取り扱い修正：2022年度）

III. 例外的な選手交代

例外的な選手交代を行う場合は、混合の男女比又は県外移籍に関するコート内の人数制限に従うこと。それができない場合、チームは不完全を宣告される。

(競技伝達：2022年4月)

IV. グリーンカードについて

20.2.1 競技参加者は、レフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

1. ユニフォームについて

- ① ユニフォームの袖の長さ…小学生では、ノースリーブの袖は認めていない。
ミズノ：キャップリーブ アシックス：フレンチリーブ はOKを出している。
- ② 全国大会では、JVA 公認企業ロゴのユニフォームを着用する。(資料参照)
- ③ 番号は、ジャージの胸部と背部のそれぞれ中央に付けなければならない。番号の色と明るさは、ジャージと対照的でなければならない。
- ④ 番号は、胸部が最小限10cm、背部が最小限15cmの高さのものを着る。番号の字幅は最小限2cmである。
- ⑤ 都道府県名…都道府県名はシャツの袖に（袖が無い場合は背面襟下に）付けてもよい。大きさはチーム名より小さい（高さが低い）こと。(資料参照)
- ⑥ アンダーウェア…アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首などからはみ出してはならない。→冬場の暖房のない体育館での試合では、半袖のユニフォームからアンダーウェアがはみ出てもよい。但し、全員が同じ色であること。
- ⑦ 混合の場合、大会要項では
男女混合チームのユニフォームは、男女で違うユニフォームを着用し、番号が重ならないようにする。ただし、違うユニフォームを用意できない場合は、同一ユニフォームでも構わないが、男子・女子のいずれかが指定された識別用バンドを腕か足首に付けるか、ソックスの長さや色、ハチマキなどで区別できるようにすること。

2. ベンチスタッフの服装について

- ① ベンチスタッフのウェアも公認企業のロゴ入りのものを着用することをお願いしたい。
- ② ベンチスタッフに小学生が入る場合、Tシャツ・短パンでも良い。Tシャツの色は他のベンチスタッフと異なってもよい。

3. 他の都道府県在住の登録選手の確認方法について

- ① 資料参照

4. 2022競技セクションに関連するルール改正

- ① コートレイアウト (資料参照)

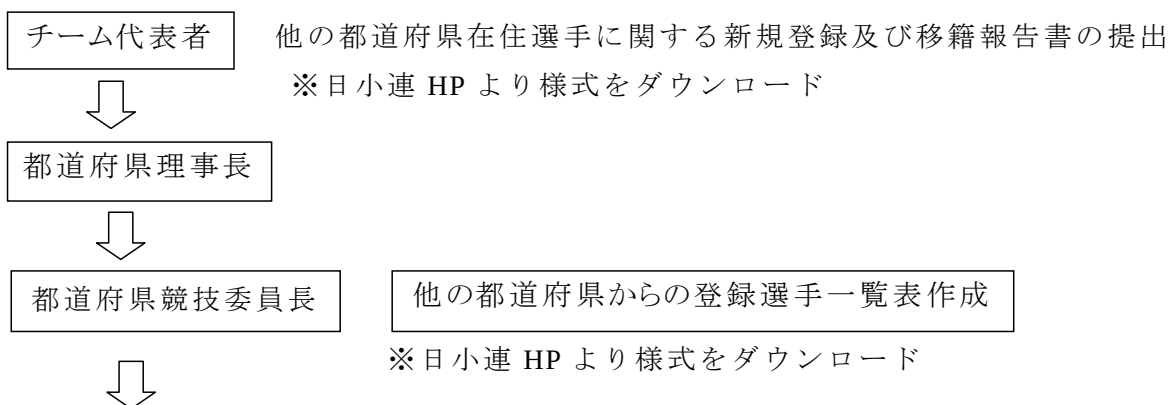
5. その他

- ① 体育館のフロアで練習できるのは、プログラムに記載されているベンチスタッフと選手だけとする。
セット間のフリーゾーンでの練習は、ベンチスタッフが相手をしてよい。(小学生)
- ② コートオフィシャルにつて
選手が6名でコートオフィシャルが足りない場合には、ベンチスタッフが行う。

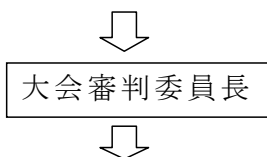
他の都道府県在住選手に関する新規登録及び移籍選手の確認方法について

日本小学生バレーボール連盟

全日本バレーボール小学生大会における、他の都道府県からの登録及び移籍選手の確認方法を以下の通りとしましたので、運用をよろしくお願いします。



全国大会	都道府県大会・地区大会
全国大会出場チームに他の都道府県からの登録選手がいる場合には、他の都道府県からの登録選手一覧表を日小連競技委員長に提出する。 kyogi@jeva-web.com	大会競技委員長へ他の都道府県からの登録選手一覧表を送る。



記 録 員	審 判 員
他の都道府県からの登録選手一覧表を確認し、記録用紙の選手の氏名の横に、○に他を記載する。 例：日本 太郎 ○他	監督サイン時に、移籍選手の背番号を確認する。

※記録用紙のスターティングプレイヤー番号、選手交代番号の記載欄にレ印を付けて確認してもよい。

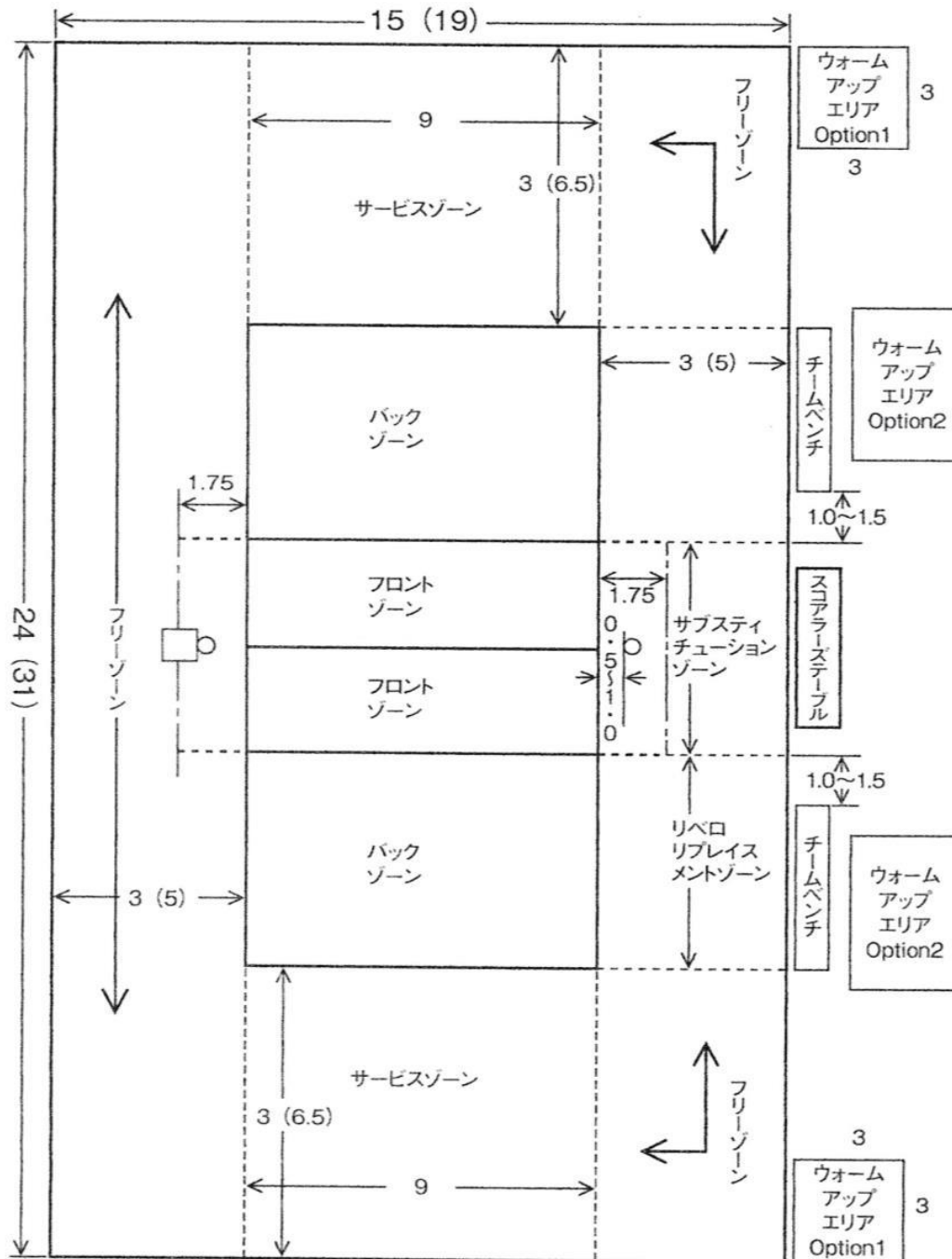
〈参考〉

大会要項 チーム編成

他都道府県在住であって、移籍または新規登録した選手はベンチには3分の1以内とする。また、コート上には2名以内とする。監督は試合前に、他都道府県からの登録選手の番号を審判員と確認しておくこと。

2022 コート競技セクションに関するルール改正

コートレイアウト図



競技会や試合ごとにウォームアップエリアを選択することができる (規則 1.4.5)

() 内数字は世界・公式大会の基準 単位 m

公益財団法人日本バレーボール協会 公認企業ロゴ一覧【2022年度】

2022年2月27日現在

【ウェア】

アシックス	
デサント	
ミズノ	
ファイテン	
ドーム (アンダーアーマー)	
トンボ (ヴィクトリー)	
プラスコ100cc (ミレグラ)	
ファースト フロンティア (ALST)	
アクラム	
トレス	
ボルトン	
スポルディング ジャパン	
ヘインズブランド ジャパン (チャンピオン)	
エスエスケイ (ヒュンメル)	

【サポーター】

アシックス	
デサント	
ミズノ	
D&M	
日本シグマックス (ザムスト)	
アルペン	
ファイテン	

【シューズ】

アシックス	
デサント	
ミズノ	

■プレーヤーの皆さまへ■

JVAが主催する全国大会および全国規模の大会においては、プロトコール(コート入場)からゲーム終了(コート退場)まで、公認企業の製品のマニファクチャーロゴ(シューズは企業を連想させるライン等)の露出を許可しております。

公認企業以外のマニファクチャーロゴの露出は禁止しておりますので、ご理解の程、お願いいたします。

令和4年度 公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会 指針

令和4年度審判規則委員会は、以下の5項目を指針とし、各事業を推進する。

- 1 審判員は、国内競技会及び国際競技会をスムーズに運営するために必要な事前講習会に参加して審判員としての質の向上を図る。審判員の技術のレベルアップがバレーボールの競技力向上になることを忘れてはならない。
- 2 各種別において判定基準の統一を図り、安定した審判技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、バレーボールとしてのインテグリティが保てるようにルールを的確に適用し、公平・公正な競技運営を行う。
- 3 選手・指導者を対象に、ルール及び取扱いについての周知・徹底を図り、正しい理解とルール遵守を醸成する。
- 4 各ブロックと連携して、A級審判員資格取得講習会や審判育成事業等を通して、次世代を担う若手審判員の育成を努める。また、男女共同参画をさらに進めるため、特に各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進する。加えて子育て世代のレフェリーが活躍できる環境整備を推進する。
- 5 コロナ禍における感染症対策においては、これまでの状況を踏まえ、今後の感染状況を見据えながら、審判員の安心・安全を第一に、大会運営ができるように、柔軟に対応を行う。

指導部：1 審判員の技術の向上を目指し、A級審判員にカテゴリーを設け、映像等も有効に活用しながら、レベルに応じスキルアップのための技術強化事業を推進する。

2 審判員の責務として、選手・指導者に対しルールはもとより、ルールの改・修正点や取扱い等を正確に伝達しルールの理解を深め、スムーズな大会運営だけでなく競技力の向上に資する。

3 各ブロックとの連携をしながら、A級審判員だけでなく幅広く公認審判員、特に若手審判員の育成事業を実施し、裾野の拡大を図る。

4 女性審判員については各世代のライフスタイルに合わせ、安心して審判活動に取り組める環境整備とともに強化事業を推進する。

規則部：見易く正確で分かり易いルールブックの作成を目指し、4種別のケースブックの編集を行う。6人制とビーチバレーボールはFIVBからの最新情報を収集し、必要に応じて改正・修正を行う。また、9人制についても競技の活性化を図るために、親しみやすいバレーボールを目指し、そのルールの研究を進める。

登録部：JVAメンバー制度(MRS)に従って、公認審判員のMRS登録の増加を目指す。また、早期登録手続きの完了と公認審判員の現状把握を行うために、各ブロック・都道府県との連携を図る。

以上

各種ルールの改正点・修正点について

2022年度の各種ルールブックの編集にあたり、主な改正点・修正点について報告致します。

1. 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2021年2月5日から7日にオンラインで開催されたFIVB総会において2020東京オリンピック後のルール改正が承認され、2021年10月にFIVBより「ルールブック2021-2024」としてホームページで公表されたものである。

それをもとに、2022年度版ルールブックの改・修正点を以下のようにまとめた。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

● 改正点

1. 1.2.2 室内コートでは、コート面は明るい色でなければならない。

FIVB 世界・公式大会では、ラインは白色でなければならない。コートとフリーゾーンは白色以外の、それぞれ異なる色で区別する必要がある。コートは、フロントゾーンとバックゾーンを区別するために色を変えてもよい。

2. 1.4.5 ウォームアップエリア

FIVB 世界・公式大会では、ウォームアップエリアは約 3 m × 3 m の広さでそれぞれのベンチ側フリーゾーンの外側のコーナーに観客の視野を遮らないように設けるか、またはスタンド（観客席）をコート面から 2.5 m 以上の高さにして、チームベンチ後方に設けてもよい。

3. 1.4.6 （削除） 4. 1.6 照明

明るさは、300 ルクス以上が必要である。

FIVB 世界・公式大会では、照明の明るさは競技エリアの表面から 1 m の高さで測定し、2000 ルクス以上が必要である。

5. 4.1.2 選手の 1 人が、チームキャプテンとなり、記録用紙に明記される。（規則 5.1）

6. 4.2.3.2 タイムアウト中：自チームのコート後方のフリーゾーン内

7. 5 チームリーダー

チームキャプテンと監督の両者は、チームメンバーの行為や規律に対して責任を負う。リベロは、チームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。

8. 5.1.2 試合中、チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督またはチームキャプテンは、ゲームキャプテンの役割を担うコート上の選手を指名しなければならない。

9. 5.1.2.3 監督が不在で、監督の役割を引き継ぐアシスタントコーチもチームにいない場合は、タイムアウトと選手交代を要求する。
10. 7.2.3 公式ウォームアップを両チームが連続して（別々に）行う場合には、最初のサービスを
得たチームから、ネットを使用してウォームアップを始める。
F I V B 世界・公式大会では、すべての選手はプロトコールならびにウォームアップ中は
試合をするユニフォームを着用しなければならない。
11. 7.4.3 選手のポジションは、次のとおりコート面に接している両足の位置 （最後にコート面に
接触していた部分） により決定され、コントロールされる。
12. 7.4.3.1 各バックプレーヤーは、対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくと
も片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターラインから遠い位置に
いなければならない。
13. 7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は、同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠
くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近
い位置にいなければならない。
14. 9 ボールをプレーすること
各チームは、（規則 10.1.2 を除き）それぞれの競技エリアとフリープレー空間の中でプレー
しなければならない。
しかし、ボールは、自チーム側のフリーゾーン外とその延長線上にあるスコアラーステーブル上から
取り戻してもよい。
15. 11.2.2.1 相手コートに侵入している片方の足（両足）の一部がセンターラインに触れている
か、センターライン真上の空間にあれば、この動作が相手チームのプレーを妨害しない限り、
その足（両足）は相手コートに触れてもよい。
16. 12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの 1 人または複数の選手が集団で腕を揺
り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービス
ヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーン
となる。サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスク
リーンではない。（第 6 図）
17. 14.6.1 ブロッカーが相手チームのアタックヒット前に相手空間内にあるボールに触れたと
き。（規則 14.3, 第 11 図㉔）
18. 15.2.4 中断の要求を拒否され、ディレイワーニングが適用された場合は、同じ中断中に（す
なわち、次のラリーが完了する前に）正規の中断の要求をすることはできない。
19. 15.4 タイムアウト（テクニカルタイムアウトの条文削除）
15.4.1 タイムアウトは、ボールがアウトオブプレーでサービスのホイッスルの前に、該当す
るハンドシグナルを示して要求しなければならない。チームの要求によるすべてのタイムア
ウトは 30 秒間である。（第 11 図④）
F I V B 世界・公式大会では、主催者の要求に基づいて F I V B が承認する場合には、
タイムアウトの長さを調整することができる。

F I V B 世界・公式大会では、ブザーを使用し、次にタイムアウトを要求するハンドシグナルを示すことが義務付けられている。

15.4.2 すべてのタイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。

20. 15.7 例外的な選手交代

負傷、病氣、退場、または失格でプレーを続行できなくなった（リベロ以外の）選手は、正規の選手交代をさせる。もしもこれができないときは、チームは規則 15.6 の制限を超え、例外的な選手交代を行うことができる。

例外的な選手交代とは、リベロ、セカンドリベロまたはリベロの入れ替え選手以外で、負傷、病氣、退場、または失格の発生時にコートにいなかった選手が代わりに出場することをいう。この負傷、病氣、または退場で交代した選手は試合に戻ることはできない。

例外的な選手交代は、いかなる場合でも正規の選手交代の回数には数えないが、記録用紙のセットや試合の選手交代の合計欄に記録される。

21. 15.8 退場または失格での選手交代

退場または失格となった選手には、直ちに正規の選手交代が行われなければならない。もしもこれができないときは、チームには例外的な選手交代をする権利がある。これもできない場合は、チームは不完全を宣告される。（規則 6.4.3, 7.3.1, 15.6, 21.3.2, 21.3.3）

22. 15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷、病氣、退場、または失格の場合を除いて、同じチームが同じ中断中（次のラリーが完了する前）に 2 回目の選手交代を要求すること。（規則

15.2.2,

15.2.3) 23. 19.2 服装

リベロは、チームの他の選手と、主要な部分の色が異なるユニフォーム（または再指名リベロのためのジャケット、ビブス）を着用しなければならない。ユニフォームの色は、チームの他の選手とは明らかに対照的でなければならない。2 人のリベロはチームの他の選手と異なる色で、さらにお互いに異なる色のユニフォームを着用することもできる。

リベロのユニフォームには、他の選手同様に番号を付けなければならない。

F I V B 世界・公式大会では、再指名されたリベロは、可能であれば、元のリベロと同じタイプ、同じ色のジャージを着用しなければならない。しかし、番号は自分のものを付ける。

24. 21.3.2.1 退場を受けたチームメンバーは、コート場にいる場合は、直ちに正規または例外的な選手交代をして、そのセットの残りに参加することができず、そのセットが終了するまでチーム控室に行かなければならないが、それ以外の処置は受けない。

退場となった監督は、そのセットでは試合に介入することができず、そのセットが終了するまでチーム控室に行かなければならない。

25. 21.3.3.1 失格となったチームメンバーは、コート上にいる場合は直ちに正規または例外的な選手交代をして、試合終了までチーム控室に行かなければならないが、それ以外の処置は受けない。

26. 22.1 構成

試合のための審判団は、次の役員によって構成される。

- ・ファーストレフェリー
- ・セカンドレフェリー

- ・ チャレンジレフェリー
- ・ リザーブレフェリー
- ・ スコアラー
- ・ 4 (2) 人のラインジャッジ

その配置は、第 10 図に示す。

F I V B 世界・公式大会では、チャレンジレフェリー（ビデオチャレンジシステム使用時）とリザーブレフェリー、アシスタントスコアラーを割り当てなければならない。

27. 24.2.10 F I V B 世界・公式大会では、規則 24.2.5 に記載されている責務はリザーブレフェリーによって行われる。

28. 25 チャレンジレフェリー

F I V B 世界・公式大会でビデオチャレンジシステム（VCS）を使用する場合は、チャレンジレフェリーを割り当てなければならない。

25.1 位置

チャレンジレフェリーは、F I V B テクニカルデリゲートが決定した別の場所にあるチャレンジブースで任務を遂行する。

25.2 責務

25.2.1 チャレンジレフェリーは、チャレンジプロセスを監視し、有効なチャレンジの規則に従って行われるようにする。

25.2.2 チャレンジレフェリーは、その任務を遂行する間は公式レフェリーユニフォームを着用しなければならない。

25.2.3 チャレンジレフェリーは、チャレンジプロセスの後に、ファーストレフェリーに反則の種類を知らせる。

25.2.4 試合終了後、チャレンジレフェリーは、記録用紙にサインをする。

29. 26 リザーブレフェリー

F I V B 世界・公式大会では、リザーブレフェリーを割り当てなければならない。

26.1 位置

リザーブレフェリーは、F I V B のコートレイアウトで決められた個別の場所で任務を遂行する。

26.2 責務

リザーブレフェリーは：

26.2.1 その任務を遂行する間は公式レフェリーユニフォームを着用しなければならない。

26.2.2 セカンドレフェリーが不在の場合や、その任務を続行できないとき、またはセカンドレフェリーがファーストレフェリーとなった場合は、セカンドレフェリーとして任務を遂行する。

26.2.3 試合前やセット間に、（もしも使用している場合は）選手交代用のパドルを管理する。

26.2.4 セット開始前やセット間に、もしも問題があるときはベンチのタブレットの動作を確認する。

26.2.5 フリーゾーンを清潔に保つために、セカンドレフェリーを補佐する。

- 26.2.6 退場や失格となったチームメンバーがチーム控室に行くように指示をするセカンドレフェリーを補佐する。
- 26.2.7 ウォームアップエリアやベンチの交代選手をコントロールする。
- 26.2.8 スターティングプレーヤーのコート内への呼び込み直後に、セカンドレフェリーに 4 個の試合球を渡し、セカンドレフェリーが選手の位置を確認した後に 1 個の試合球を渡す。
- 26.2.9 モッパーの動きに指示をするファーストレフェリーを補佐する。
30. 第 1 図 競技エリアのウォームアップエリアの変更 (Option1, Option2)
31. 第 4 図 ポジショナルフォルトの判定の図の変更
32. 第 9 図 罰則段階表退場の処置のしかた
- チームメンバーはそのセットが終了までチーム控室に行かなければならない。
- 失格の処置のしかた
- チームメンバーは試合終了までチーム控室に行かなければならない。
33. 用語の定義 (DEFINITIONS)
- チームのファーストヒット (FIRST HIT OF THE TEAM)
- プレーの動作でチームのファーストヒットとみなされるケースは 4 つある。
- サービスのレセプション
 - 相手チームのアタックヒットのレシーブ
 - 自チームがブロックしたボールのレシーブ
 - 相手チームにブロックされたボールのレシーブプロトコール (PROTOCOL)
- 試合開始前の一連の手順は、大会のハンドブックに記載されているトス、ウォーミングアップセッション、チームやレフェリーの紹介を含む。

● 修正点

1. 規則 23 の「主審」を「ファーストレフェリー」に表記を変更し、本文中の主審をファーストレフェリーに修正した。
2. 規則 24 の「副審」を「セカンドレフェリー」に表記を変更し、本文中の副審をセカンドレフェリーに修正した。
3. 本文中の「審判員」を「レフェリー」に修正した。
4. 本文中の「審判台」を「レフェリースタンド」に修正した。
5. 公認審判員活動報告書の登録番号をメンバーID に変更した。
6. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。
7. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

『2022年度 レフェリーの目標と6人制の重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定をするための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。

2 重点指導項目

【ファーストレフェリー】

- (1) 最終判定の出し方について
 - ・自ら判定を行う。ホイッスル後に、副審と必要なラインジャッジを確認し、最終判定を出す。
 - ・責任を持って説明ができるよう、最終判定を行う。
- (2) ハンドリング基準について
 - ・基準および判定の仕方についての確認を行い、すべてのレフェリーが統一できるようにする。
- (3) 不法な行為について
 - ・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度で競技規則を適用する。
 - ・最終判定後、セカンドレフェリーと協働し、コートを確認する。
 - ・軽度な不法行為を繰り返すことがないために、早い段階でステージ1を与える。
- (4) ポジションの反則について
 - ・ポジションに関するルール変更を確実に理解し、的確に適用する。

【セカンドレフェリー】

- (1) ポジションの反則について
 - ・ポジションに関するルール変更を確実に理解し、的確に適用する。
 - ・ポジションを常に確認することを怠らない。反則があれば、試合の早い段階で反則とする。
- (2) タッチネットについて
 - ・選手がネット際でボールをプレーする動作中、ボールを追わずにネット際に目を残し判定をする。
- (3) 中断の要求およびベンチコントロールについて
 - ・ワンラリー毎にベンチコントロールを行い、不法な行為や正規の中断の要求の有無を確認し、スムーズなゲーム運営を行う。
 - ・選手交代の手続きを十分理解し、複数の交代、両チーム同時のケースについてスムーズに行えるようにする。
- (4) 不法な行為について
 - ・最終判定後、ファーストレフェリーと協働しコートを確認する。特に、ネット際やベンチ等でファーストレフェリーが気づかない不法な行為があればファーストレフェリーに伝える。

【スコアラー】

サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。

(JVIMSがある場合は、その情報も参考にする)

【アシスタントスコアラー】

- (1) 不法なリベロリプレイメントがあれば、サービス許可のホイッスルのあと、ただちにブザーを鳴らす。
- (2) スコアボードの得点が正しいか確認する。

2022年度 6人制ルールの取り扱いについて

2022, 2, 11

【1】 競技参加者の行為に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者は、レフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。
- 3 競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①ファーストレフェリーが最終判定を出した後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
- ②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 4 監督がセカンドレフェリーやスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 5 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

【2】 プレーの動作に関する事項

9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは、身体の中の部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前に、ボールを4回ヒットすること。

(規則 9.1, 第 11 条⑨)

9.3.2 アシステッドヒット：選手が、競技エリア内でボールをヒットするため、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。(規則 9.1.3)

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げること；この場合は、ボールはヒット後、接触している所から離れない。(規則 9.2.2, 第 11 図⑩)

9.3.4 ダブルコンタクト：1 人の選手が連続してボールを 2 回ヒットすること、またはボールが 1 人の選手の身体の上のさまざまな部分に連続して触れること。

(規則 9.2.3, 第 11 図⑪)

(注)

1 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。

・腕が伴うようなプレーは明らかなヒットではない

2 指先 (the pads of finger and thumb/指及び親指の腹) を用いたティップは許されるが、その際、手を伴ってはいけない。

3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。

(反則となりうるケースの例)

①肘をまげてボールに接触し、その肘を完全に伸ばしてプレーした場合は、ボールを運ぶことになるため、キャッチである。

②肩のラインの後ろでボールに接触しボールを運ぶプレーや、ボールを相手方ブロックに押しつけ方向を変えて押し出すプレーについては、ボールに手を伴って運ぶ時間が長い場合キャッチの反則となる。

4 ブロックにおいても、基準は同様である。

14.3 相手空間内でのブロック

ブロックでは、相手チームのプレーを妨害しない限り、選手はネットを越えて手と腕を伸ばしてもよい。しかし、相手チームがアタックヒットを行う前に、ネットを越えてボールに接触することは許されない。

14.6 ブロックの反則

14.6.1 ブロッカーが相手チームのアタックヒット前に相手空間内にあるボールに触れたとき。（規則 14.3, 第 11 図⑳）

（注）

- 1 相手空間内で、相手のアタックヒット前にブロッカーがボールに触れた場合が反則となる。
- 2 アタックヒットと同時にブロックの手がボールに触れても、反則ではない。

9 ボールをプレーすること

各チームは、（規則 10.1.2 を除き）それぞれの競技エリアとフリープレー空間の中でプレーしなければならない。

しかし、ボールは自チーム側のフリーゾーン外とその延長線上にあるスコアラーステーブル上から取り戻してもよい。

（注）

- 1 スコアラーステーブルの後方は、自コートのフリーゾーン外側と同様に取り戻すことができる。
- 2 相手チームのフリーゾーン外側の垂直面より内側であれば、ボールを取り戻すことができる。

《図解》

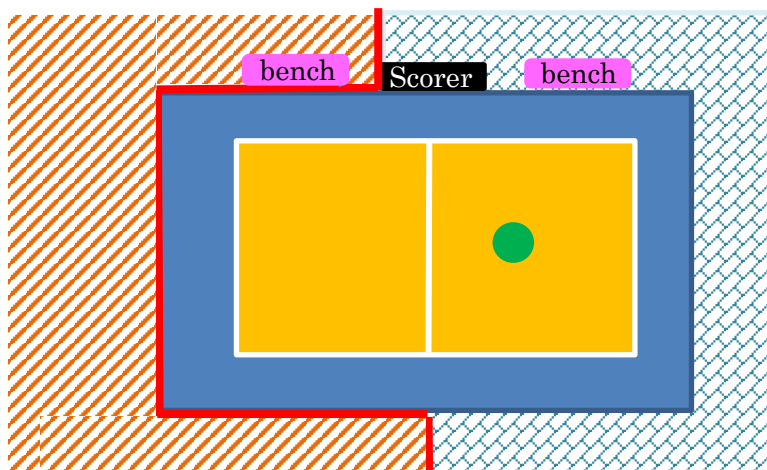
フリーゾーン



チームが取り戻すことができないところ



チームがボールをプレーできるところ



【3】 プレーの構造に関する事項

7.4 ポジション

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

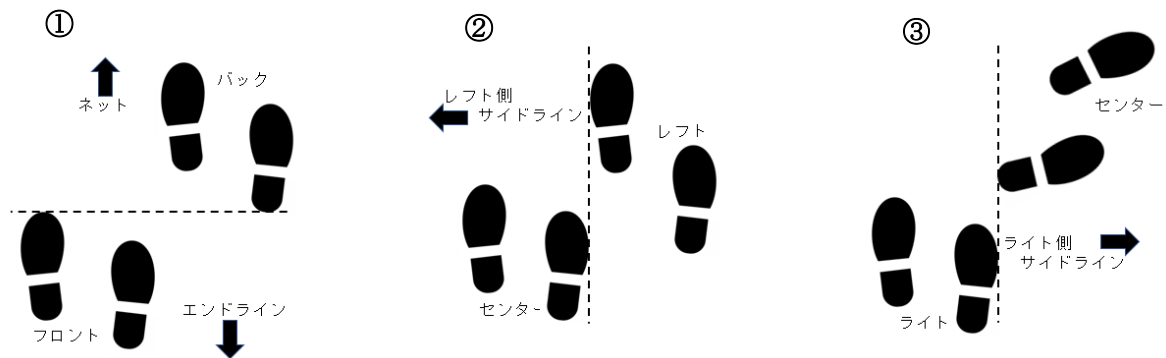
7.4.3 選手のポジションは、次のとおりコート面に接している両足の位置により決定され、コントロールされる。

7.4.3.1 各バックプレーヤーは、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足と同じ位置か、センターラインより離れた位置にいなければならない。

7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は、少なくとも片方の足の一部が同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、ライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいなければならない。

（注）

- 1 サービスが打たれた瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。
- 2 バックプレーヤーの両足よりも、対応するフロントプレーヤーの両足が完全に後方に位置しなければ、反則とはならない。
- 3 ライト（レフト）サイドプレーヤーの両足よりも、同じ列のセンタープレーヤーの両足が完全に右（左）側に位置しなければ、反則とはならない。
- 4 したがって、下図①から③はいずれも反則とはならない。



7.3 スターティングラインアップ

7.3.4 ラインアップシートがセカンドレフェリーまたはスコアラーにいったん提出されたら、正規の選手交代をせずに、ラインアップを変更することは認められない。

（注）

両チームのラインアップをスコアラーがスコアシートに記入し終わったら、チームはラインアップを訂正することはできない。提出した後でそのセットが始まる前に、スターティングラインアップの選手が負傷した場合は、監督がファーストレフェリーに申し出て、確認後変更することが可能である。

【4】 中断に関する事項

15.2 正規の試合中断の連続

15.2.4 中断の要求を拒否され、ディレイワーニングが適用された場合は、同じ中断中に（すなわち、次のラリーが完了する前に）正規の中断の要求をすることはできない。

15.11 不当な要求

15.11.1 以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である。

15.11.1.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。（規則 12.3）

15.11.1.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。（規則 5.1.2.3, 5.2.3.3）

15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷、病気、退場、または失格の場合を除いて、同じチームが同じ中断中（次のラリーが完了する前）に 2 回目の選手交代を要求すること。（規則 15.2.2, 15.2.3）

15.11.1.4 タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。（規則 15.1）

15.11.2 試合での 1 回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、記録用紙には記録される。

（規則 16.1）

15.11.3 同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

（規則 16.1.4）

（注）

- 1 正規の試合中断の要求に関して、チームが不当な要求で拒否された後、その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが、違う種類の中断の要求は認められる。ただし、15.11.1.1 の不当な要求については、サービスの実行が優先され、試合中断の要求はすべて認められない。
- 2 正規の試合中断の要求に関して、ディレイワーニングが適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。（けがや病気による選手交代を除いて）
- 3 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、セカンドレフェリーは、監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。
- 4 2組の選手交代の要求があり、その中の1組は不法な選手交代であった。セカンドレフェリーは1組の選手交代を認め、不法な選手交代は拒否し、チームに遅延の罰則を与える。
- 5 サービスのホイッスルと同時に、あるいはその後の中断の要求は拒否され、ラリー終了後、記録用紙に不当な要求として記載する。もしもセカンドレフェリーがホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。

15.8 退場または失格での選手交代

退場または失格となった選手には、直ちに正規の選手交代が行われなければならない。もしもこれができないときは、チームには例外的な選手交代をする権利がある。これもできない場合は、チームは不完全を宣告される。(規則 6.4.3, 7.3.1, 15.6, 21.3.2, 21.3.3)

(注)

- 1 退場を受けたチームメンバーは、直ちに正規または例外的な選手交代をして、そのセットが終了するまで競技場フロア内から出なければならないが、それ以外の処置は受けない。退場となった監督は、そのセットでは試合に介入することができず、そのセットが終了するまで競技場フロア内から出なければならない。
- 2 失格となったチームメンバーは、コート上にいる場合は直ちに正規または例外的な選手交代をして、試合終了まで競技場フロア内から出なければならないが、それ以外の処置は受けない。

【5】 チームリーダーに関する事項

5.2 監督

5.2.1 監督は、試合を通して、コートの外からチームのプレーを指揮する。

5.2.3.4 他のチームメンバー同様に、コート上の選手に指示を与えてもよい。監督は、ウォームアップエリアが競技コントロールエリア内のコーナーにある場合は、試合を妨げたり、遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線から競技コントロールエリアのコーナーにあるウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。もしも、ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は、監督は、自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよいが、ラインジャッジの視界を遮ってはいけない。

(注)

監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL 2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。

ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

